

そばアレルギーに関する調査

○矢後文子 佐藤恵理子 志村 綾 (大妻女大)

[目的]

平成9年の本学会で、若い女性を対象に、食物によるアレルギー様反応について調査し報告した。今回は、食物アレルギーの中でも、学校給食などで特に注意を要するそばに注目し、そばによる異常反応について調査した。

[方法]

平成9年4月、大妻女子大学家政学部・文学部・短期大学部の学生323名他に、アンケートを行い、そばを食してまたはそば粉の暴露に対し、何らかの異常を感じたかどうかを調べた。異常があったと答えた者に対しては、さらに詳細なアンケートを行った。

[結果]

アンケートは全員から回収した。そばの摂取などの後、何らかの異常を感じた人は、回答者本人に1名、回答者の知人に16名の合計17名であった。この17名の中で、2回目のアンケートに協力が得られた9名についてまとめた。回答時の年齢は5歳より47歳、性別は女5名・男4名であった。発症時の年齢は、1歳が1名、2歳が2名など6名が10歳以下であったが、25歳で発症した元そば屋店員もいた。症状別でみると、口唇・口腔内の腫脹が4例に、湿疹・蕁麻疹が各3例に、腹痛が2例に、喘息・嘔吐・下痢・頭痛・全身搔痒感・浮腫・動悸が各1例にみられた。9名全員がゆで麺で発症し、その中の5名は、食直後または1分以内に症状がでて、点滴または注射を受けた症例もあった。